【長岡京市】

校務DX計画

1. 校務DXの方向性

令和5年3月に文部科学省で「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言が取りまとめられ、次世代の校務DXの方向性が示されました。この提言では、クラウド活用を前提としたGIGAスクール環境の積極的な活用により、教職員や校内・校外の学校関係者、教育委員会職員の負担軽減・コミュニケーションの迅速化や活性化が可能であるとされています。

また、「教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策（提言）～教師の専門性の向上と持続可能な教育環境の構築を目指して～」（令和5年8月中央教育審議会初等中等教育分科会質の高い教師の確保特別部会）においても、1人1台端末の積極的な活用や、汎用のクラウドツールを活用した教職員間での情報交換の励行や会議資料のペーパーレス化、民間企業向けクラウドツールの転用による校務処理の負担軽減を図るとともに、スケジュール管理のオンライン化や、学校と保護者間の連絡手段を原則としてデジタル化するなどの取組を進める必要があるとされています。

以上を踏まえ、本市では、令和2年度に省略可能な押印を廃止するための例規改正を行いました。令和3年度からはGIGAスクール構想により導入したクラウドサービス用アカウントの本格運用によりクラウドサービスの活用を始めました。また、令和6年度には学校と保護者間のデジタル連絡ツールや採点支援システムの導入を進め、教職員の業務改善と負担軽減、ペーパーレス化や保護者の利便性向上に取り組んできました。しかしながら、教育現場では業務の複雑化や負担増加といった課題が依然として存在しており、効率的な校務運営が求められています。これらの課題を解決するため、本市町村では教職員の働き方改革の一環として、校務のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進し、業務の効率化や負担軽減に向けた具体的な取組を進めることとします。

2. 本市における課題と今後の取組み

上記の現状を踏まえ、本市における課題と考える次の項目について、校務DXに向け取組を進めます。

(1)クラウドサービスのさらなる活用

現在は、GIGAスクール構想によって導入したクラウドサービスを学習で利用していますが、校務については、オンプレミスサーバーを利用しているため、データの連携に手間がかかることが課題になっています。令和7年10月に教職員端末・校務サーバーの更新を行い、あわせて校務におけるクラウドサービスの利用を開始しました。これにより、利便性の向上と業務効率の改善を図り、不必要な手入力作業が削減しました。

(2)「教育情報セキュリティポリシー」の策定

これまで、教育分野では「長岡京市情報セキュリティポリシー」を準用していましたが、ゼロトラスト環境でのクラウド利用を前提とした場合に相応しいセキュリティレベルを担保するため、文部科学省のガイドラインや教育現場の現状を踏まえ、新たに、令和8年4月に「教育情報

セキュリティポリシー」を策定しました。

（3）FAX・押印の見直し

FAX運用については、この数年間でメールへの移行が進み、現状として、FAXを必要とする業務はありません。

また、押印については、令和2年度中に教育委員会内の業務について一斉に見直しを行い、必要な例規改正についても実施済です。

（4）次世代校務支援システムの導入に向けた検討

京都府市町村教育情報化推進協議会のもと、京都府全域で統合型校務支援システムの共同調達を進めています。現在は校務において複数のソフトウェアを使用しており、データ連携に課題があります。この課題は京都府全域で統合型校務支援システムの共同調達により解決する見込みですが、今後も各自治体の事例を参考にしつつ、教職員が働きやすく、児童生徒が学びやすい環境の整備を検討していきます。